

えべつ未来づくりビジョン
＜第6次江別市総合計画＞
《 別 冊 》

えべつ未来戦略（案）

江別市企画政策部

平成25年9月

目 次

■ えべつ未来戦略

はじめに	1
戦略1 「ともにつくる協働のまちづくり」	3
戦略2 「えべつの将来を創る産業活性化」	7
戦略3 「次世代に向けた住みよいえべつづくり」	13
戦略4 「えべつの魅力発信シティプロモート」	17

はじめに

「えべつ未来戦略」は、『えべつ未来づくりビジョン<第6次江別市総合計画>』のまちづくりの基本理念にのっとり、将来都市像「みんなでつくる未来のまち えべつ」を実現するため、江別市の特性や優位性を活かして、まちの魅力を高めていくことにつながるテーマを設定し、重点的・集中的に取り組んでいくものです。

また、「えべつ未来戦略」は、それぞれを単独で推進するものではなく、戦略と戦略が、あるいは戦略と分野ごとの個別計画などが、相互に関係し合うことでより大きな効果を生むこととなります。

戦略をより具体的に進めるために、それぞれの柱の下には、「戦略プロジェクト」が、さらにその下には、「推進プログラム」が続き、その時々々の社会経済情勢等を踏まえ、必要に応じて事業内容を見直しながら推進していきます。

平成26年度からのまちづくりの重要な取組となる「えべつ未来戦略」では、次の4つの柱を設定しました。

- 戦略1 「ともにつくる協働のまちづくり^{*1}」
- 戦略2 「えべつの将来を創る産業活性化」
- 戦略3 「次世代に向けた住みよいえべつづくり」
- 戦略4 「えべつの魅力発信シティプロモート^{*2}」

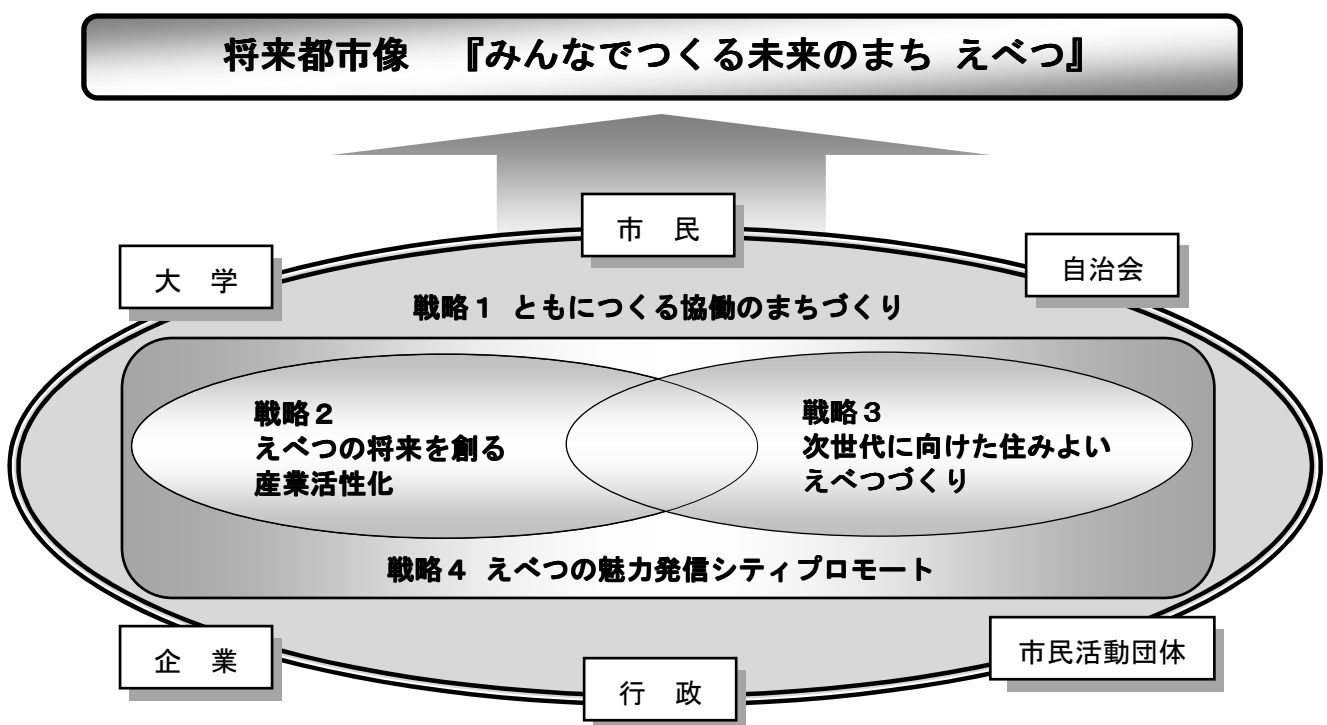
江別市では、今後、生産年齢人口が大幅に減少することが予測されることから、江別市が持つ潜在的な都市の利点や高齢者世代が持つ知識・経験の活用、埋もれている貴重な人材の発掘、あるいは、近隣自治体との広域的な連携で地域の魅力を高めて企業を誘致するなど、まちの活力を維持していくための産業政策が喫緊の課題となっています。

同時に、企業で働く人たちや多くの高齢者などが、安心して暮らせる生活環境の整備を進めることも重要な課題となっています。子育てや教育といった子どもを取り巻く環境、福祉・医療といった市民が生涯にわたって安心して生活するための環境の整備、あるいは、街なかでも心豊かに過ごせる自然環境の保全など、市民が暮らしやすいまちづくりが求められています。

特に、超高齢社会を迎えると、自家用車で自由に移動できなくなる高齢者が増えていくことが予想されます。限られた財源の中で、まちの機能を持続させていくためには、個々のライフスタイルを尊重しつつも、なるべく駅を中心とした地域に生活機能が集約化され、誰もが快適に生活できるようなまちづくりを行うことが必要です。

また、こうした取組から生まれる江別市の魅力や多くの地域資源について、まずは市外の多くの人にその魅力を知ってもらい、そして、来てもらうことが、まちの活性化にとって大切です。そのためには、江別市が情報を積極的かつ効果的に発信することと併せて、市民一人ひとりが江別市のことを熟知し、市外の人たちに対して江別市の魅力を個人やグループ単位で伝えていくことも必要です。

「えべつ未来戦略」の推進に当たっては、「江別市自治基本条例」に基づき、市民一人ひとりが、江別市のまちづくりの主役として活躍するという意識の醸成が必要であり、併せて活躍のための土台づくりが、ますます重要になっています。「誰か」に頼るのではなく、「自ら」まちづくりに積極的に関わり、地域や組織の垣根を越えて、協力して地域課題の解決に取り組むことが重要です。市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政など多様な主体や様々な世代が、それぞれの役割と責任を理解し、互いに尊重しながら協力してまちづくりに取り組むことが、今の時代に求められています。



【用語解説】

※1 協働のまちづくり：

「江別市自治基本条例」第2条第5号では、「協働」について、それぞれの役割や責任を理解し、互いに尊重しながら、地域社会の課題などを解決するために協力して取り組むことと定めています。このことから、市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政など多様な主体や様々な世代が、それぞれの得意分野や経験・知識等を活かしながら、まちづくりにおいて事業の企画段階から関わり、様々な取組を実践することにより、より大きな効果が期待できるものと考えています。様々な主体が、様々な場面や状況で活動することになるため、「協働のまちづくり」の形態は、多種多様なものと考えられます。

なお、ここでいう主体の「市民」に関しては、同条例の第2条第1号で「市内に住所を有する者、市内で働き、若しくは学ぶ者又は市内で事業活動その他の活動を行なう者若しくは団体をいう」と定義していますが、本計画では、市民以外の主な協働の主体を分かりやすく記述しています。

※2 シティプロモート：

まちを発展させるために、人や物や情報などの資源を利活用していく取組であり、本計画では、「シティプロモート」を単なる情報発信にとどめず、江別市の持つ魅力や優位性を市内外に、効果的に発信していく取組と考えています。

戦略 1 ともにつくる協働のまちづくり

計画期間：平成 26 年度～平成 30 年度

戦略の方向性

少子高齢化をはじめとした社会環境の変化や、安全・安心への関心の高まりなどにより、市民のニーズは多様化、高度化しており、地域が抱える課題も複雑化しています。

そうした中、まちの課題を効果的、効率的に解決するためには、市民や各種団体など多様な主体や様々な世代が、それぞれの役割と責任を認識し、互いに尊重しながらそれぞれの得意分野や特性を活かし、協力して取り組む「協働のまちづくり」を確立する必要があります。

平成 21（2009）年 7 月に「江別市自治基本条例」が制定され、様々なかたちで協働による取組が進んでいますが、まだ「協働のまちづくり」を推進していく環境が十分に確立されたとはいえない状況です。また、「えべつ未来戦略」の他の戦略を効果的、効率的に推進するためにも、協働による取組は不可欠です。

そこで、「協働のまちづくり」の気運をさらに高め、多様な主体や様々な世代が、それぞれ社会の担い手であるという意識をもって、一緒になってまちづくりに取り組める環境づくりや協働の仕組みづくりに重点的に取り組めます。

- めざす姿**
- 市民や各種団体など多様な主体が、魅力ある協働のまちづくりに取り組んでいます。
 - 大学や大学生と連携した、江別市ならではのまちづくりが進んでいます。

戦略実現に向けての展開(戦略プロジェクト)

戦略を実現するために、より具体的な展開を下記のように行います。これらは、まちづくり政策の各分野と密接に連携しながら、組織横断的に取り組んでいきます。

ともにつくる協働のまちづくり

戦略プロジェクト名

- 多様な主体が協働するまちづくり
- 大学が活躍するまちづくり

達成度を測る指標

成果指標名称	単位	現状値	目標値
1A-1			
1A-2			
1B-1			

※現状値は、本総合計画策定時における直近値（平成 25 年度）

戦略プロジェクト1A

多様な主体が協働するまちづくり

市民、自治会、市民活動団体、企業、大学、行政など多様な主体や高齢者をはじめとする様々な世代が、それぞれの得意分野や豊かな経験・知識等を活かし協働するためのネットワークづくり、組織づくりを促進し、協働によるまちづくり・人づくりに取り組むことで、協働の気運をさらに高め、江別市における協働推進の環境を整備します。

推進プログラム名称	主な内容・特徴
①協働によるまちづくり	協働の意識の向上を図るとともに、まちづくりのあらゆる分野において、多様な主体や様々な世代の協力による地域課題の解決に取り組みます。
②協働を担う人づくり	協働によるまちづくりを持続させるために、多様な主体や様々な世代が連携し、次世代を担う人材を育成します。
③協働に取り組むための組織づくり	多様な主体や様々な世代の協力による取組をさらに推進するためのネットワークの強化を図るとともに、協働の実践につながるような組織づくりを促進します。

【関係する主なまちづくり政策】

<08-01> 協働のまちづくりの推進

戦略プロジェクト1B

大学が活躍するまちづくり

江別市の特性として市内に4つの大学があり、これらの大学及び学生が、それぞれの得意分野を活かして、地域課題の解決やまちの活性化のために、様々な分野で活躍するまちづくりを進めます。

推進プログラム名称	主な内容・特徴
①大学の得意分野を活かした地域の活性化	大学の研究機能を活用するとともに、大学と地域が互いを知り、交流する活動を促進し、地域の課題解決をめざします。
②知的資源である大学が持つ力を活かした教育・人材育成の促進	大学の教育機能を活用し、地域活動という視点で市民に学びや交流の場を提供するとともに、協働のまちづくりを担う人材を育成します。
③学生の力を活かしたまちづくり	学生の力を活用し、地域が持っている力との相互作用により、地域の活性化をめざします。

【関係する主なまちづくり政策】

<07-01>生涯学習の充実

<08-01>協働のまちづくりの推進

戦略 2 えべつの将来を創る産業活性化

計画期間：平成 26 年度～平成 30 年度

戦略の方向性

まちの活力の基盤の一つは産業です。人口減少社会を迎える中で、まちの活力を維持していくためには、これまで以上に産業の活性化が重要になっています。

江別市は道内の同規模の他都市と比べて人口当たりの産業規模（農業、工業、商業の生産・販売額、観光入込客数など）が小さく、加えて、市外へ通勤する人が多く、昼間人口が少ないことから、市内の市場規模も小さい状況にあります。しかしながら、江別市は、大消費地札幌市に隣接し、交通アクセスの優位性があるといった強みがあることから、地域の特性を踏まえた企業誘致等を進めることで産業を活性化できるものと考えられます。

そこで、こうした地の利を活かすための土地利用を検討するほか、江別市の特性である大学・研究機関などの知的資源を活かして、産学官連携や産業間連携による産業の活性化を進めるなどにより市場規模等の拡大を図ります。また、市内ににぎわいを創出するため、江別市に住んで、江別市で働いてもらえるよう、市内での雇用創出と就労環境の整備に一体的に取り組むとともに、様々な地域資源や立地性を活かした江別市ならではの観光振興によって経済の活性化に重点的に取り組みます。

- めざす姿**
- 農業・商業・工業等の連携により産業が活性化し、まちの活力が高まります。
 - 市内での就労人口や交流人口が増加し、市内がにぎわいと活気に満ちています。

戦略実現に向けての展開(戦略プロジェクト)

戦略を実現するために、より具体的な展開を下記のように行います。これらは、まちづくり政策の各分野と密接に連携しながら、組織横断的に取り組んでいきます。

えべつの将来を創る産業活性化

戦略プロジェクト名

- 産業間連携等による産業の活性化
- 農業と2次産業・3次産業との連携による広域的な展開
- 雇用の創出と人材育成の支援
- 地域資源の活用による観光の振興

達成度を測る指標

成果指標名称	単位	現状値	目標値
2A-1			
2A-2			
2B-1			
2C-1			
2C-2			
2D-1			

※現状値は、本総合計画策定時における直近値（平成 25 年度）

戦略プロジェクト2A

産業間連携等による産業の活性化

それぞれの産業や企業単独ではなく、江別市の特徴的な取組である産学官連携・農商工連携を強化し、多様な主体が連携して地域に根差した産業集積をはかるとともに、大学・研究機関に恵まれた江別市ならではの知的資源や学生の力を活かした産業の活性化をめざします。

推進プログラム名称	主な内容・特徴
①市内企業等が主体となったネットワーク構築の支援	中小企業をはじめとする企業間の連携や産学官・農商工のネットワークを強化し、新ビジネスの創出など、江別市全体や江別市を取り巻く地域に効果をもたらす事業を重点的に支援します。
②マーケティングの視点に基づいた産業振興	市内の中小企業が、市内だけではなく道内外・海外への広域的な展開や、顧客のニーズを考え、製品・サービスの企画から流通に至るまでを総合的に模索するマーケティングの視点に基づいた産業振興を支援します。
③地域に根差した商店街の魅力づくりの支援	地域の特性を活かした商店街の魅力づくりや、学生や地域住民など多様な主体や様々な世代が交流し、商店街の活性化をめざす活動を支援します。
④大学・研究機関との共同研究の推進	江別市の知的資源である大学・研究機関と企業等が共同で産業振興をめざすための研究を支援し、高付加価値化・新製品開発・ブランド化等を推進します。

【関係する主なまちづくり政策】

<02-01> 都市型農業の推進

<02-02> 商工業の振興

戦略プロジェクト2B

農業と2次産業・3次産業との連携による

広域的な展開

江別市の基幹産業の一つである農業が、2次産業・3次産業と連携して実施する江別産農畜産物の高付加価値化の取組や立地環境を活かした食関連産業の集積を図るとともに、江別産の「食」について市内・道内はもとより道外・海外といった広域的な市場ニーズに合わせた販路拡大への取組などを支援します。

推進プログラム名称	主な内容・特徴
①「食」の付加価値を高める産業の集積	北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区※1への指定などを契機として、江別産の農畜産物の活用につながる食関連産業の育成と企業誘致を推進します。
②付加価値の高い新製品開発、販路拡大等の支援	地元農畜産物を利用した新製品開発などの取組を支援するとともに、市内生産者・事業者による国内外への販路拡大に向けた取組を支援します。

【関係する主なまちづくり政策】

<02-01>都市型農業の推進

<02-02>商工業の振興

【用語解説】

※1 北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区：

EU・北米経済圏と同規模の成長が見込まれる東アジアにおいて、「北海道」をオランダのフードバレーに匹敵する食の研究開発拠点とすることを目的として、農水産物の生産体制を強化するとともに、「食」に関する研究開発・製品化支援機能を集積・拡充し、これを活用して北海道の豊富な農水産資源および加工品の安全性と付加価値の向上、市場ニーズに対応した商品開発の促進と普及拡大を図ろうとするもの。

食品の有用性評価、食品加工の拠点である「札幌・江別地区」、農食連携付加価値向上研究の拠点である「帯広・十勝地区」、水産物由来の有用性素材研究の拠点である「函館地区」の3エリアの相乗効果により、高付加価値な食品開発を加速。海外の市場ニーズ・規制等への対応を一次産品生産から製品化、輸出までを一貫して進めることにより、食料供給基地・北海道ならではの国際競争力を高めようとするもの。

戦略プロジェクト2C

雇用の創出と人材育成の支援

「働きたいまち・えべつ」・「企業が立地したいまち・えべつ」をめざして、企業にとって魅力的な立地環境を整備するなど、企業立地の促進による雇用創出と、企業が必要とする労働力を確保するための就労支援・人材育成に一体的に取り組みます。

推進プログラム名称	主な内容・特徴
①企業誘致のための条件整備	江別市の地理的優位性を周知しつつ、企業にとって魅力ある支援を制度化し、さらに子育て環境の充実など、働きやすい環境整備を進めることにより、食関連産業を中心に企業誘致を進め、雇用の創出を図ります。
②潜在労働力の掘り起こし (就労支援)	働きたい人が働けるような就労支援に取り組むことで、就労人口を増加させ、企業誘致につなげます。
③産業の担い手の確保、人材育成の支援	企業と人材のマッチングや産業の振興に貢献する人材育成の支援等により、次代を担う優秀な人材の確保・育成を支援します。

【関係する主なまちづくり政策】

- <02-02> 商工業の振興
- <06-01> 子育て環境の充実

戦略プロジェクト2D

地域資源の活用による観光の振興

石狩川や野幌森林公園などの豊かな自然、地場産品、公共施設や歴史的建造物など、既存の地域資源を再評価し、観光資源として有効活用するとともに、大都市である札幌市に隣接しているという地の利を最大限に活かした、江別市ならではの観光を推進します。

推進プログラム名称	主な内容・特徴
①地域資源の観光への有効活用	豊かな自然や既存の施設の利活用、食と農の観光化や、市民や企業等による観光資源の発掘・創出・魅力向上を支援することにより、地域資源を活かした観光を推進します。
②観光資源のパッケージ化	顧客の目的やニーズに合った様々な地域資源を組み合わせた、江別市ならではの観光資源のパッケージ化や観光ルート化による相乗効果で、観光の魅力を高めるとともに地域振興も図ります。

【関係する主なまちづくり政策】

- <02-01> 都市型農業の推進
- <02-02> 商工業の振興
- <02-03> 観光による産業の振興

戦略 3 次世代に向けた住みよいえべつづくり

計画期間:平成 26 年度～平成 30 年度

戦略の方向性

少子高齢化、人口減少社会において、福祉・教育・交通などのサービスの低下を防ぎ、持続可能なまちづくりをしていくためには、人口減少を少しでも抑制することが必要です。

そのため、江別市においても、子どもを産み、育てやすい環境、子どもが健やかに育ち、心豊かに学ぶことができる環境づくりを進め、選ばれるまちづくりが必要です。

一方で、人口減少社会や超高齢社会では、それぞれのライフスタイルを尊重しつつ、誰もが生活しやすいように、駅周辺を都市活動の拠点として位置づけ、必要な生活機能を集約化した利便性の高い、魅力あるまちづくりを行うことも求められています。

また、このようなまちづくりを進める上では、同世代の人たちのつながりだけではなく、子どもから高齢者までの多くの世代の人たちが、世代を超えたつながりを持ち、次の世代へ知恵や経験を引き継いでいけるようにすることが大切です。

そこで、子どもを産み育てる環境を充実させ、誰もが暮らしやすいと思える環境の充実を追求するとともに、駅を中心として、様々なライフスタイルやライフステージに対応した住みよいまちづくりに重点的に取り組みます。

- めざす姿**
- 子どもを産み育てたいと思えるまち、子育て後も安心して暮らせるまちをめざします。
 - 駅周辺の利便性を向上させるとともに、駅を中心とした拠点とその他の地区とのネットワークを充実させ、すべての市民が快適に暮らせるまちをめざします。

戦略実現に向けての展開(戦略プロジェクト)

戦略を実現するために、より具体的な展開を下記のように行います。これらは、まちづくり政策の各分野と密接に連携しながら、組織横断的に取り組んでいきます。

次世代に向けた住みよいえべつづくり

戦略プロジェクト名

- 社会全体で子どもを産み育てる環境づくり
- 駅を中心とした暮らしやすいまちづくり
(えべつ版コンパクトなまちづくり※1)

達成度を測る指標

成果指標名称	単位	現状値	目標値
3A-1			
3A-2			
3A-3			
3B-1			
3B-2			

※現状値は、本総合計画策定時における直近値（平成 25 年度）

【用語解説】

※1 えべつ版コンパクトなまちづくり：

江別市内の各駅周辺に、それぞれの地区の特性に応じて、様々な都市機能が集積し、そこが多くの方が集えるような拠点となることを考えており、これは、直ちに、都市機能を再配置して集約化するものではなくて、長期にわたって段階的に取り組んでいくことが必要となるものと考えています。

戦略プロジェクト3A

社会全体で子どもを産み育てる環境づくり

子どもを産み育てる環境を充実させるとともに、多世代が関わり合いながら、社会全体で子育てをサポートする環境をつくることで、「子育てしながら働きやすいまち」「子どもを産み育てやすいまち」をめざし、子育て世代の定住促進に取り組んでいきます。

推進プログラム名称	主な内容・特徴
①子どもを安心して産み育てられる支援体制の整備	既存の子どもを産み育てる支援政策を効果的に連動させ、利用者のニーズに合わせた支援を重層的に実施することで、子育て世代をサポートします。
②子育て世代が定住したくなる住環境の整備と教育内容の充実	子育て世代の定住を促進するために、自然と調和した良好な住環境を整備するとともに、江別市の特性を活かして教育内容の充実を図ります。
③多世代が交流する子どもの遊び場の充実	子どもの育ちを支援するために、いろいろな年齢の子どもが集って、一年を通して安心して快適に遊ぶことができる場の充実を図るとともに、子どもだけでなく、子育て中の保護者が、そのような場を利用して、高齢者をはじめとする先輩保護者と交流を深めることができる環境の整備を進めます。

【関係する主なまちづくり政策】

- <01-01>人と自然の共生
- <05-01>市街地整備の推進
- <06-01>子育て環境の充実
- <06-02>子どもの教育の充実

駅を中心とした暮らしやすいまちづくり (えべつ版コンパクトなまちづくり)

江別市のまちの特性に合わせた駅周辺の活性化を進め、魅力ある住みよいまちを実現するとともに、様々なライフスタイルに対応するため、駅周辺の利便性を向上させることで、誰もが暮らしやすいまちづくりに取り組んでいきます。

推進プログラム名称	主な内容・特徴
①様々なライフスタイルに対応した 駅周辺の利便性の向上	日常生活（買い物、行政手続き、子育てなど）、余暇、働く場面などで、様々なライフスタイルに対応できるよう、それぞれの駅周辺の特性を活かした利便性の向上を図ります。
②交通ネットワークの充実	駅を中心とした公共交通を充実させることで、駅周辺から遠い郊外に居住する市民にも利便性のあるまちづくりをめざします。
③高齢者がいきいきと活動しやすい 居住環境の充実	住み替えやバリアフリー化への支援などにより、高齢者が快適に生活できるよう支援します。

【関係する主なまちづくり政策】

- <03-04> 高齢者福祉の充実
- <05-01> 市街地整備の推進
- <05-02> 交通環境の充実
- <06-01> 子育て環境の充実
- <09-01> 自主・自立の市政運営の推進

戦略 4 えべつの魅力発信シティプロモート

計画期間:平成 26 年度～平成 30 年度

戦略の方向性

定住人口や交流人口を増加させるためには、まずは、江別市の良さが道内外に広く認知されている必要があります。

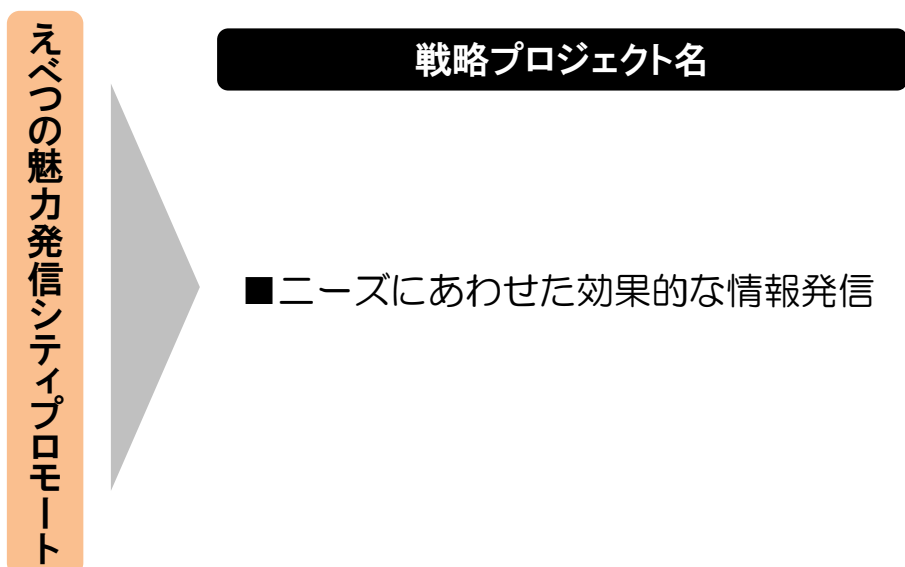
江別市は、道内で人口規模が9番目の都市であり、北海道最大の都市である札幌市に隣接し、札幌市の中心部まで短時間で移動ができる好立地にあります。また、石狩川や野幌森林公園など豊かな自然環境に恵まれているという特性を併せ持っていることから、江別市のまちの魅力を市内外へ効果的・積極的にPRしていくことが重要です。そして、「えべつ未来戦略」の各戦略を効果的・効率的に推進するためにも、積極的な情報発信が不可欠です。

そこで、江別市として情報発信のあり方やPR方法を確立し、多様な媒体を利活用するとともに、市民や企業等と一体的に江別市の創造的な取組や魅力を情報発信し、対外的に浸透させるシティプロモートを推進することで、江別市の認知度の向上に重点的に取り組めます。

- めざす姿**
- 効率的・効果的な情報収集・発信が行われ、市民との情報共有が図られています。
 - シティプロモートにより、道内・道外における江別市の認知度が向上します。

戦略実現に向けての展開(戦略プロジェクト)

戦略を実現するために、より具体的な展開を下記のように行います。これらは、まちづくり政策の各分野と密接に連携しながら、組織横断的に取り組んでいきます。



達成度を測る指標

成果指標名称	単位	現状値	目標値
4A-1			
4A-2			
4A-3			

※現状値は、本総合計画策定時における直近値（平成 25 年度）

戦略プロジェクト4A

ニーズにあわせた効果的な情報発信

情報収集と発信の仕組みを再構築して江別市の情報戦略を確立し、対象と目的を明確化することで、ニーズにあわせた効果的な情報発信に取り組んでいきます。特に、まちの魅力を高めるために重点的に推進する取組を積極的にPRし、市民や企業などの主体と行政が、一体的に情報発信に取り組むことで、「戦略1」から「戦略3」までの効果的なプロモーション※1の推進を図るとともに、江別市の認知度向上をめざします。

推進プログラム名称	主な内容・特徴
①市民や企業などが主体となる まちづくり情報発信の促進	まちづくりへの積極的な市民参画や企業参画を促し、一体的に情報発信に取り組むための環境づくりを行うなど、「戦略1」のプロモーションを積極的に推進します。
②江別市に来てもらうための観光・ 産業情報の発信	各種イベント情報や、江別市ならではの地域性を活かした観光・産業情報をPRします。また、市民や企業等による市民目線の観光・産業情報発信の取組を支援し、「戦略2」のプロモーションを積極的に推進します。
③江別市に住んでもらうための 生活情報の発信	生活、子育て支援・教育、安全・安心や環境への取組に関する情報、良好な住環境の情報などを市内外にPRし、「戦略3」のプロモーションを積極的に推進します。
④江別市のイメージづくり	多様なメディアを利活用して、市内外に江別市の魅力や優位性を積極的にPRし、認知度を向上させます。

【関係する主なまちづくり政策】

<09-02> 透明性の高い市政の推進

※1 プロモーション：様々な媒体を活用して宣伝活動を行うこと。